

方言錄音資料シリーズ—7

鹿児島県熊毛郡上屋久町宮之浦方言

上 村 孝 二 編

1 9 6 8

31 2 3 4 5 6 7 8 9 10

もくじ

収録地点とその方言について	2
表記について	4
本文	
1. 鹿児島見物	5
2. 民話：本妻と情婦	13
3. お祭り	17
4. 海の清難	26
注	37

このテキストは、総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」(代表者大石初太郎)の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」(国立国語研究所 話したことば研究室編)を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは、鹿児島大学教授 上村孝二が担当した。

収録地点とその方言について

I. 収録地点名：鹿児島県熊毛郡上屋久町宮之瀬

2. 収録地点の概要

宮之瀬（人口4500）は早くひらけた港町。藩政時代には奉行所在がおかれた。今日も高等学校、裁判所、上屋久役場などあり、文化政治の中心地である。なお安房とともに島の表玄関でもある。ほとんど農業で従事するが、昔は飛魚漁期（4月～6月）には男子は漁業に参加するものであったが、今日は漁は不振で、むしろ屋久島発電所などの工場が出来ての方に勤める人が多くなった。鹿児島から直行の定期船（5時間要）が着き、種子島への渡島もこの宮之瀬港を利用。最近は奄美・新光の客の往来はげしく、シーズンは漁は活気を呈する。屋久島、木根などのお盆物では甘藷が主である。

3. 収録した方言の特色

屋久島方言は種子島方言と違い、うんと薩摩方言に接近する。しかし薩摩方言を区分するとやはり特異な位置に立つ。今鹿児島地方の方言と比較してみると次のような特徴がもうう（宮之瀬方言だけについて比較）

〔音韻〕1. 母音とは〔e〕であって〔je〕ではない。

2. オ列長音において〔au〕系〔eu〕〔ou〕系のものはすべて〔o:〕だ。
3. カー（母）ナーマ（波）のようにイ・ク列音節の前の母音は長い。
4. 母音を短音化することもあるが、鹿児島方言のように徹底したものではない。
5. ガ行音（語中語尾）を使う。
6. ダ行音カ行音は稍に濁音化する。
7. ジ・ズ、ズ・ヅの別はない。
8. [r] 音の脱落がはげしい。又その結果母音が重複するので〔j〕〔w〕などが挿入される。
9. ダ行音はラ行音化する。ザ行音もダ・ラ行音化する傾向がある。
10. 入声音はない。

〔文法〕1. 故俗法は弁証していない。助動詞による敬意表現も稀だが、文末助詞でその代り補うということも十分でない。

2. 薩摩方言の單体助詞の部分をテに言う傾向。ヨカテヤロ（いいのだろう）
3. 頭脳の意 ゴタルもゴテアルという傾向。

4. 断定的助動詞はジャもあるがヤ（ヤル）などが特色。

5. 過去の「けれど」はバッヂである。

6. 由の「から・ので」はカラ（カー）である。

7. 文末助詞にタヌ（いい晚オオ）、……シノ（のに、ものを）がある。

8. 肥前方言のように対格にヲ（オ）の外、バを用いる。

9. 肥前方言のように形容詞のサ語尾隊歌法がある。日ノ長サメ（長いことよ）

- 〔語彙〕① スパート（てんてこ舞する） ② キムル（死る） ③ トビウオドリ（時鳥） ④ ワスル（来る事、唯一の敬語動詞だが敬意はそう高くない） ⑤ オミ（あなた：御身） ⑥ ショナイグ・セシナグ（下水留）

○は種子島と共通。

4. 地点選定の理由

鹿児島方言を総合データで聞くばあい、薩摩本土ではどこの方言を探検しても個人によって一様に聞こえると思ふ。思い切って椎島から選ぶことにした。入声音のないこと、アクセントが鹿児島地方と違う二型アであっても次のような高低を示すことなどで（三音節語以上に頭高があらわれるなど）¹、鹿児島はなれが感じられるであろう。

宮之瀬 a型 おガ おお おおガ おおお おおおガ
b型 おガ おお おおガ おおお おおおガ

屋久井の方が鹿児島より一倍にわかりやすいくだろう。

表記について

(指定の字母以外に使用した字母、および使用した補助記号)

特になし

1. 文末助詞 na:, ne:, nao の類はすべて前文にくっつけて表記した。
2. 断定の助動詞 zja, ja などはやはり自立語なので離して表記。
3. 敬語表現はほとんどなきにひとしき状態だし、文末助詞が十分代って働いているとも思えないので、男女、老若の差が感じられないほどぶっきらぼうの標準語訳になっている。やむを得ない。

1. 鹿児島見物

録音日時 1967年7月18日

録音場所 宮之浦 田代旅館

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
A	岩川シオ	女	明治29年生	農業	宮之浦に生まれずっと現在まで居住
B	松田 繁市	男	昭和33年生	木炭製造業	0才～18才在郷、19才八幡(北九州)市→20才(和歌山市)21才～24才(佐世保海兵团入隊) 45才～46才(呑張、南方へ)46才～現在(在郷)

解説： Aが現地の子供が鹿児島市の病院に入院しているのを見舞に行って来たと言えば、Bは初耳だと答え、宮之浦も大きくなったので、そのことは中々耳に入らないものだと話し合う。ついで、お互いに鹿児島の風景のよさ、最近の大きく発展して行くりまさを以前の鹿児島と比べて語る。ついで交通事故も多くなかったことに及ぶ。Bは鹿児島では交通事故に注意せよと子供らに注意をうけるほどであると言つ。一度鹿児島に遊びたいが鹿児島もあり出られそうもないとも言う。終りに指宿のヘルスセンターのことにつぶ。

A konogoro kaposimai itaq mitaya kaposima hono-
このごろ 鹿児島に 行って 見たが、鹿児島は ほん
kote mo: beina tokoino poto naqcjoqtejane: oja
とに もう 別な 処の ように なっているのよ 私は
siponeN mae itatekara konda bazimeci itato jaq-
4, 5年 まえ 行ってから 今度は 初めて 行ったの だっ
taga
たが。
B wa: nanno jo:zide itatokai
あんたは 何の 用事で 行ったのかい。

A oja itokoga bjo inni nju:in sic joqta mon zjaka:jo
私は いとが 病院に 入院 していた もの だからよ。

B bjo inni na nno bjo:kidejo
病院? 何の 病気でなの

A kega sic joqtejo a:sjo cu nma sec joqte.... ano
怪我 しているよ。 足を 折り曲げていて あのう
mimai itato jaya jyo
見舞いに 行ったのよ。

B kega dokode kega sitatokajo
怪我? どこで 怪我 したのかね。

A dokode kega sitaka dokoka jakurenka⁽¹⁾ doqkade
何處で 怪我 したか、 どこか 墓久電 どこかで
keba sitata jadoba
怪我 したの だろう。

B jakude nni dej oq tata ka so ja
墓久電に 出ていたのか それは。

A dej oq tata jairo
出ていたの だろう。

B n: nda hazime ci jaba
うん。わしは 初めて だが

A wanta bacumimi zjaqtajoya jaqpai mo: imawa
あんた達は 初めて だったよ。 やはり もう 今は
mukasino sote nakawai mukasja murana koma-
昔の ように ないわい 音は 村が 小
“kaktaga:su i qki wakai joqtabaqci mo: imawa na-
さかっただ (強まゆいすぐ わかる ものだったけど もう 今は か
kanaka wakaini qkagane:
かなか わかりにくいやな

B n: sa: mo nastoka jai mon⁽²⁾ hamadore sinda
うん。そら もう 何とか だ もの。 浜戸で 死んだ

B hita: waq dano-sja sijan⁽³⁾ jona mon zja monne:
人は 鹿町の連中は 知らない ような もの だ ものね

A soijo mo ima: gaq cui waka:ndo na nna nander-
そうよ。 もう 今は ほんとに わからない。 何が 何でや

B ka zjaijo hosite mo kodo nmojo: ojano namae-
ら だろうか そして もう 子どももね 飼の 名前
remo iwan nja mo raga koreka zjaijo mo hito-
でも 言わなきゃ もう 誰の 子やら だろうか もう 少
cumo sija:n
しも 知らない。

B honnokoq zja mb hitoc umo wakaran
ほんとう だ。 もう 少し わからない。

A wanda sic qjokaq sija:n baqci n da mo hitoc umo
あんた達は 知っているか 知らないけど、 私は もう 少し
sija:n do mo' tosjo toqtja
知らん もう 年を とったば。

B Ndomo Ndomo hitoc umo wakaran
わしも (言いどみ) 少し わからない。

A so nna mon zjaq tojone: iononaka cjuwa mo:
そんな もの だよね 世の中 と言うのは もう。
uq tekawaqt e sitaku o sitaku u s c i gai mo na-
うって変わって 仕立屋 仕立屋 仕度が 違い、 もう なん
zjakanzja minna cigo: teku⁽⁵⁾ hakim onka: ra
だかんだ みんな 通って行く。 鹿物から
kim onka: ga cigo: qjote ja mon no
鹿物からが 通っているん だ もの。

B zjara:i⁽⁷⁾
そうだわ。

A mata kaposimana de itate meba beqkaku mata
又 鹿児島などに 行って 見れば 別格 又
cigo:waine:

B ma: kaposimamo na qo itac ja miran na cigo: qjog
まあ 鹿児島も 水く 行っては 見ないが、 通っている

zjaro:jo
 だろうよ。
 A kadosimano temonkanni ita tokja biqkui
 虎見島の 天文館に 行った 時は びっくり
 suraine: hitono o:ka kotojo
 するわね。 人の 多い ことよ。
 B zjara:i
 そうだわね。
 A joke: hasiqcjonba kuruma: kurumato deNsja-
 余間に 走っているよ 車は。 車と 電車
 nimo noitoan⁽⁸⁾ Boto anba batabasicioeba noiso-
 にも 乗りきれない ように あるよ。 うろうろしていれば 乗りそ
 kono yoto aqdo
 こなう ように あるよ。
 B honnara mo: to:kjo: cju:cibaqcimo⁽⁹⁾ kagosima-
 それなら もう、 東京 と言うけれども 虎見島
 mo heq jaqpai jao ikan done:⁽¹⁰⁾
 も (寂しい) やはり ざっと 行かないので。
 A jao ikan⁽¹¹⁾ dokokai⁽¹²⁾ mukasika: utaga aqzjaneka
 ざっと 行かない どこかい。 吟は 呼が あるではないか。
 jakuzja mijanova ra tanedewa akoy⁽¹³⁾ meisjodokoko-
 「歴久では 富之浦 種子では 赤尾木 (言いまがい)
 ka meisjodokerowa kaggynosimato utaga aqzja
 (いまがい) 名所どころは 虎見島と 現が あるでは
 neka wa:
 ないか。 あんた。
 B so: so:
 そう。 そう。
 A sone n jute wa: mukasika: no meisjo ja monno
 そんなに 言って あんた。 昔からの 名所 だ ものね。
 soin ja maen ja sakurazimao hikae te na nci
 それには、 前には 桜島を ひかえて 何とも

uwa na:snai honi
 言え ないわね ほんとに。
 B kagosimamo tahienna⁽¹⁴⁾ mo nao hiro: naqta mon
 虎見島も 大変な もう なお 広く なった もの。
 z jagane:⁽¹⁵⁾
 だからね。
 A mo: iqpa:i hiro: naqteta mon konda tani jama
 もう いっぱい 広く なっていた もの。 今度は 谷山
 made hiko:de kite nao wa: buto: naqta wa
 まで 引きこんで 来て なお あんた 広く なった あんた
 kagosimamo
 虎見島も。
 B tani jama no bun demo wa: agena hirokaqtatojo
 谷山の ぶんでも あんた あんなに 広かったよ。
 A mo son ima: nambai mukasino nambai naqcio-
 もう そのお 今は 何倍。 昔の 何倍に なって
 to ja monno mo: ano na(Ncuka) josi nono hen-
 いるんだ もの。 もう あの 何と言うか。 吉野の 辺
 ka: zu:qto ega deketene:
 から ずっと 家が 出来てね。
 B zjao honna⁽¹⁶⁾ ita tokja josi nono hen na:ma:ra
 そうだろう。それなら 行った 時は 吉野の 辺は まだ。
 A jzu: takuga dekete hanasi na:ny
 住宅が 出来て 話に ならないよ。
 B josi nono hen na:ma:ra honno inka jaqtaga
 吉野の 辺は まだ ほんの 田舎 だったよ。
 A motowa hitoi saiki jaqtaga imadoma: rokoga
 もとは 一人 歩くもの だったが、 今は どこが
 dokodeka zjao: mo hitocumo waka:ntojo
 どこなんだやら、 もう 少しも わからないよ。
 B so:
 そう。

B wa: konopora ikanokai
あんた この頃は 行ったのかい。

B mo oimo nago: ikanro:
もう わしも 水く 行かないよ。

A aquai cjoicjoi ikanjanejo ano waka:N sote
やはり ちょいちょい 行かなければね、あの わからぬ ように,
nao naqtekudo: mo cigo: te kita monno
なお なって行く。 もう、追って 来た もの。

B iko: to omocioqtaqcimo kosiqa itaka mon zjaka:
行こうと 思っていても 腹が 痛い もの だから
ne:

A zjaba zjaga tabemonna cipausi
そうよ。 そうよ。 食いものは 追うし

B ko: cuzikode mo: ha: de:mon¹ zjaba ha:
交通事故で もう ほら お車 だよ。 ほら。

A zja: dokoizja naka mo soi leba kangija naka
そちある。 始では ない。 もう それを 言えば 限りは ない。
mijanrani oqtemo ko:cu: zikonja o:to jaro
宮之前に いても 交通事故には 逃う だろう。

B jo: so ja mo:
うん。 そう。 だ。 もう。

A zibunni kio kikasite sjaj:nto site mae usi:
自分に 気を 利かせて しゃんと して 前 後ろ
to: mite saikeba hitocumo kega suru sewa:
を 見て 歩けば 少しも 怪我 する 心配は
nakatojo jaqpai kokodemo batabata sicjoeba
ないよ。 やはり 此時でも うろろ していれば

keba suqto jaro
怪我 するの だろう。

B ha: konomae ita tokinanda mo musikoga gao:
はあ。 この前 行った 時なんかは もう 息子が ひど

cui sinbai site (aha) sinpai sunnaci juba-
く 心配 して (思ひづかい)「心配 するな」と 言う
qcimo kikan to ja ga
けれども、 きかないの だよ。

A jaqpai kowa ojao omo: tojo (B'N') sinbai
やはり 子は 犬を 思うの。 (うんうん) 心配
site ke keganado saseja senkaci jaqpa omo
して (思ひづかい)怪我などさせは しないかと、 やはり 思う
dokoizja naka
どころでは ない。

B oja: antacino sinpai sendemo kaiundende soiko-
わしへ お前たちが 心配 しなくても 商軍で それこ
sa gwaikokumo zu: qto sa saicjoru otoko
そ 外郎も ずっと (思ひし)歩いている 男
jaya nan no sonna sinpai sipa ijanci² jubaq-
だよ 何の そんな 心配 しなくとも よいと 言う
cimo zi:cjan mukasito imawa aha cigote ja da
けれど、 「前ちゃん」昔と 今は (思ひづかい) 逃う のだよ。
soren son jokubaqta kocu i: jannaci ehe...
そんな その 欲ばつ ことを 言ひなさんと (思ひづかい)…。

A zja: rokoizja naka mo mukasito imato ciu:ote
そちである 始では ない。 もう 昔と 今と 違って
mukasino nagasaki ga imano jakusimano jona
昔の 長崎が 今の 屋久島の ような
mon zjaqto jaro sono atai:i kanbecjorana:ja mo
もので あるの だはう。 その 当りに 考えていなければ、 もう
kaposimanimo meqtani dej a:s:nnai mo ima:
鹿児島にも もったに 出られは しない。 もう 今は

B n: nakanaka buqso zjai monnone:
うん、 なかなか 物騒 だ ものね。

A buqso: jo ikudemo mo: ikuto omo:eba hiko:ki-
物騒よ 行くにしても もう 行くと 思えば、 飛行機

ka: demo hunemo na:romo kurusi jokato' jabaqe
でも 船も 何度も 来るし 結婚だ けれども

nakanaka i tateka: sa: kiga mo hito isrukiga
なかなか 行ってから 先が もう 一人あるきが

deken goto na:tai to inamomni naqtaja mo
出来ない ように なつたり 年暮りに なつたら もう

baqtai mo na:njo²²
すっかり もう 取目だわい

B na:ntokano ano hara ibusukino herususenta:ni-
何とかいう あの はら 指宿の ヘルスセンターに

mo i tate azai ka asura kotoya aqata
も 行って ずいぶん 遊んだ ことが あったよ

A oja abikonja itacina mijantone ibusukinja
おは あそこには 行っては 見ないね 指宿には

hokan tokoja mo iqppai mawaq cjoqbaqcimo mo:
外の 姉は もう みんな 囲っているけれども もう、

ibusukidakeja ikanzajaa konomae ikoja cuta-
指宿だけは 行かないんだよ この前 「行こうや」と言った

baqci sonnai ikanzj soa isogasusite modoqte
けれど そのまま 行かないで はら 忙しくて 戻って

kita tokini
来た とき。

B modoqteka: amega hute wa (A e): aizawai ka
渠ってから 雨が 降って あんた、 (ええ) ひどく。

A ameno hiwa mo haqtai mo na:nnaine: (B n)
雨の 日は もう 全く始末に おえないね、 (うん)

dokodemo sosite mo: bjo:ninmo mo: jo: naqte
どこでも。 そして もう 病人も もう よく なって

warai jokaqtajo
大笑 よかったよ。

B zjarai maq....
そくだわい、 まあ

2. 民話：本妻と情婦

録音日時 1967年7月18日

録音場所 宮之浦 田代旅館

話手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住地)

A 岩川シオ 女 明治29年生 教業 宮之浦で生まれずっと居住。

解説：本妻の外に情婦をもつ男が情婦とからって、本妻をもじり情婦を入れようとした計画が失敗した物語り。男と情婦との計画では、次のことを本妻が本妻なら、口実に本妻をおいだものであった。1.本妻は絶子のはまが離れるか。2.本妻の秘蔵する三昧鏡を情婦に貸してくれるか。3.本妻の秘密する琴を情婦に貸してくれるか。4.本妻の大切な豪勢の水を情婦にくれるか。以上の序で話をもちかけ、つづきに本妻が実行するので計画は失敗して行く。

A mukasi mi janourani nakano joi hu:huga aqta
昔 宮之浦に 仲の よい 夫婦が あった

aqta tokoiga ro:ju mon zjaqtaka otokono
(若いどみ) ところが どういう もの だったか 男の

hitoga kija kawaqte mijanrano macihareuni
人が 気が 変わって、 宮之浦の 町はずれに

ikenjano onnano hitoi og tokini maiban iku
一軒家の 女の 一人 いた とき、 部屋 行く

note naqte soiba honsaiga mjo:na koq zjato
よの なって それを 本妻が 紗な こと だと

mote cukete i qte mitsa tokoiga hutai so:dan-
思って、 あとつけて、 行って 見た ところが 二人 相談

no sijogte do:sitemo ano kazukoba morosanija
を して いて 「どうしても あの 和子を 戻さなければ

ikanca cijokoto hutai hu:hunja narana ja
いかないって。 千代子と 二人 夫婦には 成ることは
(言いまちがい)

na:sk: dositemo modosanija ikan ga sen don-
 出来ないから どうしても 戻さなければ いけないが (意味なし) どん
 na huni site modoseba jokatokai jutaja ci-
 な 風に して 戻せば よいのかい』 と言ったら、千
 jokoya ju:nja ano wa:neno kuzukowa ma hino
 代子が 言うには 「あの あんたの 和子 まあ 帽の
 hakamao nui ga naijokaine cjuraci sa: sija:-
 はかまを 繕うことが できようかいね』 と言った。『さあ、しなら
 nijo nui ga naijokae soimo ju:te mijianja
 いよ。 繕える だらうか。 それを 言って 見なけり。
 waka:N hona son hino hakamao nui ga naebajo
 わからない。 そんなら その 帽の 符を 繕うことが できればね。
 jokabaqci nui ja na:sto se: ba: mo soide hito-
 よいけど 繕えないと すれば、もう う。 一
 cude hanete butai meotoni nanga cute jaqata-
 つて 戻して 二人 夫婦に なるよ』 と言って なった
 ci soika: sono onagoya sono banha cukekake-
 って それから その 女が その 瞑 (男の)あとをつけ
 te kite dokoni itacjo:i jokato mote kita ri-
 て 来て どこに 行っているかと 思って 来た と
 koiga butai sono hanasjo hino hakamano han-
 ころが 二人 その 話を 帽の 符の 話
 sio sijqqtaci son hino hakama (cju)wa iken
 を していたとき。『その 帽の 符 と言うのは どのよう
 site cukugtokai cju:taja konen sitejo: kone-
 して 作るのかい』 と言ったら、『こんなに してよう、こんな
 N site akaka kiede konen site watamo irete
 にして 亦い 布で こんなに して 締も 入れて
 cukuqto jaro: cjurata... soosite sono onagoya
 作るの だろう。』 と言った。…… そして その 女は
 mo hon:saja sugu modogte kite i esame hosita
 もう 本姿は すぐ もどって 来て 家の方へ そして

tokoiga asuno-asai naqtä tokoiga karuko
 ところが 翌朝に なった ところが 「和子
 ma: anö hakamao nui ga naqkae cjurata tokoiga
 まあ あの 符を 繕うことが 「出来るか」と言った ところが
 nui ga naqdo: cjuraci hona nu:te me cjurute
 「授えるよ」 と言ったって。『そんなら 繕って 見よ』 と言っておいて、
 soide kieö ko: te kite sosite hino hakamao
 それで 布を 買って 来て、そして 帽の 符を
 nu:te sohite tonozjoni watasite tonozjoe:a
 繕って そして 夫に 渡して 夫が
 mo qte iqta:c mata asuno-banmo sono to:i
 もって 行ったって。又 翌朝も その 通りに
 mata mibino to: ini sono onapön tokoisame
 又 右の 通りに その 女の 处へ
 iku monzjaka: cukekakete ita tokoiga hutai-
 行く ものだから、あとつけて 行った ところ 二人
 no ginniga koizja mo totemo ai zjaba aiga
 の 咲が 「これでは、もう とても あれ だよ。 あれが
 samisenno daizini sicjona siba samisenno
 三昧線を 大事に しているが、あれを 三昧線を
 kase cjurate mijokai ci samisenno daizini
 貸せ と言って 見ようかい』と。『三昧線を 大事に
 site mo: kanzi:n samani sicjona mon zjaka:
 して もう 甘造様に している もの だから、
 soi so:danno site me soiga so:danni na:nto
 それに 相談を して 見よ。それが 相談に ならないと
 se: ba mata na:ntoka na:nija na:Nga cjurate
 すれば また 何とか ならなきゃ ならないよ』 と言って
 jute ho:sita tokoiga hutaja mo samisenno
 (言って)。そうした ところが 二人は もう 三昧線の
 hanasjo sijoi mon zja koikosa kasanija ikan-
 話を している 様子 だ。これこそ 貸さなければ いけな

pato omote kazukowa..... modogte kite hosite
 いがと 思って、 和子は もどって 来て、 そして
 asitano-aso sono cijokoua kaike kite sami-
 妻朝 その 千代子が 借りに 来て 「三昧」
 senno ke:te kuenka hai jasi koqzja hai
 被を 貸して 「くれないか」「はい。やすい ことだ。 はい。
 国
 moqtaite kue moqtaite hite uto:te odoqte
 もって行って くれ もって行って 弾いて 歌って 踏って
 kue cjute jute motasite jaqta ho:sita toko:
 「くれ」と言って (音って) 持たせて やった。 そうした とこ
 iua mata sono aibamno itate mieba mo koizja
 ろが また その 眠ねも 行って 見れば もう、「これでは
 toqtemo mo damasja na:Nda konda koto: moq-
 とても もう 取ることは 出来ないよ。 今度は 琴を もう
 cjonna ano kotowa kasuka kasankaga mondai
 ているが 「あの 琴は、 貸すか 貸さんかが 問題
 zjapa soi hito:cu mata ju:te mijankai (cju-
 だが) それ 一つ つ また 言って 見ないかい」と言
 tac: hosite cijokoua asitano-aso karuko.
 ったって。 そして 千代子が 妻朝 「和子、
 oini ano sono koto: kasite kuenkai hai
 おに あのう その 琴を 貸して 「くれないかい」 はい。
 moqtaite bi:te hite iqkuademo bi:te kuen-
 もって行って 弾いて いくらでも 弹いて 「くれな
 kajo (cju:te) ano zjoq zjaidajo: cijutaja
 ゆよ」と言って、「あの 上手 だわね」と言ったら
 zjoqzja nakabagimojo: cijutaci soika: mada
 「上手では ないけれどもね」と言ったて。 それから 又
 sono bana mada cukekakete itate mita tokon-
 その 晚は 又 腕をつけて、 行って 見た 「とこ
 i ga ban mo koizja toqtemo damasa na:sci
 ろが、「今度は もう これでは とても 取ることは できない」

aiga hito:cu sotecuno kio modcjona:pa soa mo
 あれが 一つ 錦絵の 木を もっているが 「それは もう
 toqtemo daizini-site inocika-niba:me zjaga
 とっても 大事に して、 いのちから 二番目
 aikosa ajo kasa na:N(oo)ka kasan cjkamo
 あれこそ。 あれを 買うことは できない (おは官 (歌さし) 貸さん) と言うかも
 siendo aikosa kasan cjkamo sienga itate
 知れないぞ。 あれこそ 貸さないと いうかも 知れないが 行って
 me:cis sosite kaike kitaci son toki kazukoga
 見なって そして 借りに 来たって。 その 時 和子が
 iwakuni samisen kasite koto kasite sorejori
 国くに 「三味線 貸して、 琴 貸して それより
 dai zina oqtaba kaside naniya osikaro oniwa:
 大事な 夫を 買して、 何が 怪しから お庭
 no sorecu (cijutaci) to:to: hon:saiga jona-na:
 の 錦絵」 と言ったとき。 とうとう 本妻が 世の中
 ka: toqte toqtabu to:qta cjudes ujo hutai
 は (歌まちがい) とった。 通ったと言うですよ。 二人
 hu:hude to:qta ci
 夫婦で 通ったて。

3. お 祭り

録音日時 1967年7月18日

録音場所 宮之浦 田代旅館

話手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住地)

- | | | | | | |
|---|------|---|--------|----|------------------------------------|
| A | 岩川レオ | 女 | 明治29年生 | 農業 | 宮之浦で生れずっと居住 |
| C | 岩川貞次 | 男 | 39年生 | 商業 | 0才～18才(在郷) 18才～46才(大阪市) 47才～現在(在郷) |

解説：本来4月10日のお祭り日を4月3日に変更した時の神社の世話をCは市民にうらまれたということから、現在の祭り当方がさびしいものになったと、お互に嘆く。昔は当日は非常に賑やかな行事がくりひろげられて、境内の小学校の生徒弁当ごしらで宮之間の神社の祭りに集まつたものだ。中には神社にまいらず芝居だけを見るのが目的の人もいた。芝居には話手もそれぞれ役者になって演じたものだ。舞台にあがって唄をうたったこともある、などの追憶談に花が咲く、最後にAの民謡（漁師のうた）が唄われる。

A teiziozi konoborono siqato:ka: ikena ka:-
直次さん この頃の 4月10日は どんな 祭
ku:ijo
子かい。
C a: ma: kijonemō soide so:do: zjataga saq=
ああまあ 去年もそれで 舞動 だったが さっ
pāi kikagorowā mo: sabisju: naqte koika:
ぱい もか境は もう 淋しく なって。これから
moton to:i hitocu seinnja na:n cijute zinsja-
との通りに、ひとつ しなければいけない と言って、神社
no jakunimo joqte so:dano si:jona ige:N
の 人も 集まって、相談を しているが、どんなに
naqtoka kijonennajo imano: siqato:kao hini-
なるのか。去年はよう、今の 4月10日を 日に
cio kaete mitana: cju: kqdde soide: e: hi-
もを 変えて 見たなら と言う ことで、それで えと 日
nicio miqkani site sitatotoj tokoisa soio
にもを 3日で して (祭)したのよ。ところが それを
kjuni kaeta ju:te mo: toko:zjuka: semeko:-
急に 変えた と言って、もう ところ中から 責めた
saete waraeme o:taka
てられて、ひどい目に 逢らたよ。
A zjada
そうだよ。

C Ndōmimō ^節kotosika: jakuni nni naqta baqqai zja-
私も ことしから 彼人に なった ばかりだ
ga mo:s emekō: saetaga
が、もう 責めつけられたよ。
A ima mukasino yocja nosite mo: kassamano
今は 昔の ようには なくて もう 神羅の
macui sitemo niyenna zju:ninbaqkai mukasja
祭を しても 人々は 10人ばかり、昔は
sonna monzja nakaqtaga
そんな のでは なかっただよ。
C nijijakana mon zjatado: ano mikosio kacui-
にぎやかな もの だったぞ。あの みこしを かついて
de ikuto juto su:kino naniya zu:qto murao
で 行くと いうと、先の 何が ずっと 村を
hitomawari mawaqte kuqto juto si: no howa:
一通り 回わって 来ると 言うと 戻の 方は
ma:ra ima deta tokoini arujo:na:koode warae
まだ 今 出た ところに あるような ことで、すごく
nijijakana mon zjataga ganao
にぎやかな もの だったがね。
A honnokote waba koga doke oqdeka zjaijo: ima
ほんとに わが 子が どこに おるの だろうか、今
hunko: saoq cijute so:do: sun monzjaqtaga
跡みつけられる と言って 舞動 する ものだった
imananda mo:……
今などは もう ……。
C hoika: mikosisama ha sumuto konda hamade:
それから みこし様が 戻むと 今度は 一浜で
hamadebai ju:te bento: hiraitenijakani
浜出張り と言って 弁当を 開いて 一浜やかに
sun mon zjataga imayora mo:sabisi: mo: zjao
する もの だったが、今ごろは もう 淩しい もの だろう。

A'so:jo utotai odoqtai siodokja jo:si hame: うよ。
そうよ。 嘴ったり 路たり。 潮時は 良いし、 兵へ

decjogte so:ro: sun mon zjaqta uto:tai oro-
出ていて、 順動 する もの だった。 嘴ったり 路

qtai-toinamowwa toinamoww wake-sja wake-side:
ったり、 年寄りは 年寄り、 畏い者は 畏い者で

sicjogata
あるものだったよ。

C matana: ano gaqko:karajo a: kensja jaqta
又ね あのう 字からさ、 ああ 神社 だった

mon zjakara zijsjano kakusikijana: soide:
もの だから 神社の 格式がね。 それで

jakusimazju: no gaqko: no seitoga kuqdakedemo
屋久島中の 学校の 生徒が 来るだけでも

koa naenze niente joijoqtaganano
これら 千人で 寄り集まるものだったがね。

A zjaqta dokoizjia nakado
そうである。 どころでは ないよ。

C soi jakara nao nipi jaka qta ima: kono koa
それ だから なお にぎやかだった。 今は この これ

sjus:senyoka: koqci saqpa i jaqse nqote naqta
終戻後から こっち さっぱり 番目に なった

wao
あなたね。

A honnokog zja wa: no ju: gote suqpai mo nanga
ほんと が あなたの 言う おり、 さっぱり もう 何が

nandega zjaijo
何やら だろうか。

C koimo ma nastoka site jaqpai niijakani
これも まあ 何とか して、 やはり 顺やかに

senjia ikante jaganao neNNi iqdo ku: hitocu-
しなければ いかな。 だがね、 年に 一度 来る 一つ

no gokurakudemo aqto jaka: kono simano koq
の 健楽でも あるの だから この 島のこと

ziaebla nisijakani site hitocu icincidakeja:=
であれば 顺やかに して ひとつ 一日だけ

ne: jakusimazju: asobu cju: hini motonto i
ね、 屋久島中 遊ぶ という 日に、 もとの通り

naosannja ikananano
直さなければ いけないね

A zja: dokoi zja naka mukasa so: otomomo
そうである どころ じゃ ない。 君は (言いまちがい) お作も

site hunko:su:n goto aqta: a ima: jo macuin ja
して 踏みつけられる ように あったが 今はね 禁りには

zju:nibakai kite ete sosite sibaja cjeuba
10人ばかり 来て おいで そして 芝居 と言ったら

toko:zju kaotai innotai bento: moqte o:so:-
所じゅう 背おったり 荷なつたり 弁当を もって 大腹

ro:re site saikuya i gen naqto jaokai aja
助 (言いまちがい) 歩くが、 どんなに なるのだろうか あれは。
して

C soiga aqpa jaksimano imano gorakude gor-
それが やはり 屋久島の 今 の 鋸楽で、 鋸樂

kuno sukunai tokoi zja mon zjaka: soi cine-
の 少ない ところ な もの だから それを 一年

Nni iqdo tanosimide minna hataku mon zjaka:
に 一度 楽しみで、 みんな 帰く もの だから

soide nao sore: n aqto jo
それで なお そんなに あるのよ。

A nnja soja soi zjato jabaqci kansamanja omaira
いや、 それは それ なんだ けれど 神様には お参りは

senzi oqte sono beNTobaqkai moqte sibaibaqkai
しないで いて、 その 弁当ばかり 持って、 芝居ばかり

mijtoga kini kuwantoj oja
見るのが 気に 収まらないよ、 わたしゃ。

C z ja z ja: z ja: soiga sonatoga aodo' hoika: jo:
そうだ。 そうだ。 それが そんなのが あるぞ。 それからよう。

mata: kan'sama: soqci noke sicjooite hosite
又 神様は そっちのけ しておいて そして

ete minna mijazu eq sibai mijazumo' hazun-
おいて みんな (言いさし) (言いわかい) 芝居、 宮相様が はずん

denao (A so:jo) zibunde e: iakusani na:nja
でね (そうよ) 自分で よい 役者に ならなければ

na:n cute soa ma kenshao sitthi hite mata hute
ならない と言って、 そら まあ 喧嘩を したりして。 又 大きい

sibai jo: jari joq tawa zennno iqto:
芝居を よく やる ものだったわい 我が 要るのを。

A mukasa honnokote (C u:) cju:singurabakai jan
昔は ほんとに (うん) 忠臣蔵ばかり やる

imo:n zjaqtara
もの だったよ。

C ano: oju: sinbura tokja omitacia iqpeN omja:
あのう 忠臣蔵の ときは あんた達は、 一っぺん あんたは、

nanzja nakaqtake: ano okaruka nankade deta
何では なかったかい。 あのう かかるか なにかで 出た

kotoga aja sen zjaqtake
ことが あるいは しな かったかい。

A zjaqtaro okaruni oimojo
そうだったよ。 かかるに 私もよ。

C e: oimojo iqdo a:e: iqkwani tosi jaqtakaine:
ええ。私もね 一度 (言いよみ) いくらの 年 だったかいね。

zju:haci ntoi si jaqtakai mo jonzju:nanne naqdo:
18年の だったかい。 もう 40年に なるよ。

a: imano sebnozakurano ano: ha: nanjeu: tokai
ああ 今の 千本桜の あのう ほれ 何というのかい。

susijanodan ai jarasaetene: azaja akahazi
すし屋のぬ あれを やらされてね ひどく 涙腺

ke: ta kotomo an'ya
かいた ことも あるよ。

A e: susijano ai zjaro
ええ すし屋の あれ だろう。

C osato osato
お里。 お里。

A osato jaro
お里 だろう。

C zjaro zja:ro
そうだろう。 そうだろう。

Azjozu zjaqtaga harja zjozu zjaqtaga oimo
上手 だったよ。 はら 上手 だったよ。 私も

wa.....
あんた。

C watasino nawa osato to mo:su c jutena:
「私の 名は お里と 申す」 といってね。

A笑い

C ja mon zjaqtara (笑い) omoidaketa omoidaketa
そつであるもの だったよ。 思い出した。 思い出した。

A oimo wazai ka nanne mae jaqtaka Ndamo uto-
私も ずいぶん 何年 前 だったか わしも 風

wanija sumazzi bute: ni aqatka utoikata jaq-
わなれば ならなくて 鈎舞台に 上がって 横うもの だっ

ta tokini....
た 時に。

C ha zjao zjao uta c jueba osioba wa: wa:zai
はあ そうだ。 そうだ。 呼 と言ったら、 おおさん あんた、 ひどく

mukasika: koeno e: onago jaqtaya hitocu
音から 声の よい 女 だったが、 ひとつ

uto: te ku kikasekai mo nago kikanga ano:
唄って (言いさし) 間かせんかい。 もう 永く 開かないよ。 あのう

soa nagono bonoro inojo ano: den cuboo dois
 そら (青いまちがい) 益盛りのよ。 あのう 武吉盛りの
 tokoi hitocu hitobusi kikasite kui jankai 50
 ところ、 一つ ひと筋 間かせて くれなさらんかい
A den cuboo ro ikaja
 線直りかね。
C jo:
 うん。
A aja oja kinomo ototemo uto:taga oja mo dae-
 私は (言いよどろ) 昨日も 一昨日も 曰ったよ。 私は もう 旗...
 cjonanane:
 説いてるんだがね。
C hitobusijo
 ひと筋。
A hokano utademo uto:kai honna
 外の 旗でも 曰おうかい。 それなら。
C jo: hokan utademo na demo e:ya hitobusi
 うん。 外の、 旗でも 何でも よいよ。 ひと筋
 kikasei
 期かせい。
A nanjo utoeba jokakaine:
 何を 曰えば よいかいなあ。
C na demo jokaro
 何でも よいよ。
A sa: honna kasaodo idemo uto te mi jokaine
 さあ ほうなら 箕輪りでも 曰って 見ようかいなあ。
C e sohite sobite kui jankai kasaodoi wasueta-
 ええ、そして (言いよどみ) おくれんかい。 箕輪り 忘れた
 tonara den cubo ano koto sja mi jakokarademo
 のなら、 線直 あのう 「ことしゃ 郡から」 でも
 e:janai kai
 いいではないかい。

A soizjane: koto sja mi: jaka kara saqsa daiko-
 それでね 岡「ことしゃ 郡から プサ 大原
 kusamano o:toqzjono e:bi susamaya owatai zja
 種の 弟じょうの えびす様が お渡り じゅ
C a: makoto kana
 合の手「ああ まとことかな」
A a: mako: tode: gora: ru owatai i nasa rete kui-
 岡「ああ まとこで ござる お渡り なされて」 旗
 seto tomaigo: no o:mizei 50
 潮と 泊河の おおみせい
C torasjoto (i) jareba toro toro torojo
 合の手「腹せうと」 言いやれば トロ トロ トロよ
A to:reba icima:nhaqsen tori agjo medetaina
 岡「登れば 1万8千 錦り揚げう。 めでたいな」
C o:i ja do:qkoi
 合の手「おひいわ どっこい」
A sa:ba:mo cu:re cu:re sa: ici:ma:Ngo:seN
 岡「船も 純れ 純れ サー 1万5千
 sja:rejo
 ジャレヨ」
C o:i ja do:qkoi ja qpai ko:a:
 合の手「おひいわ どっこい」 やはり これは。
A sa:ma:ga bunesa:le sa: to:reba joi irosja:re
 岡「さまが 船さえ さあ 疲れば よい。 イロジャーレ
 e: sja:rejo:
 エー ジャーレヨー」
C ha waqzai nusja to:sja toq temo mukasino
 あは。 ひどく 女生は 年は とっても 音の
 zju: bacino koe ja qpai sic joqto jane:
 18の 声 やはり しているの だね
A Nda mo jaqsendo: (C u:n) mo haga cu:unkute mo'
 家は もう 黙黙よ。 (うん) もう 曲が 断けて もう

hita: ma: raru
舌は ま らる

C mo; to; simo toqcoqta: koemo o tetakato omo-
もう 年も とっている人は 声も 落ちたかと 思

cjoeba jaqpai zjqqzjawai
っていると、やっぱり 上手だわい。

4. 海 の 遭 難

録音日時 1967年7月19日
録音場所 宮之浦 話し手(D)の自宅

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (籍貫) (居 住 历)

C 岩川貞次 男 明治39年生 滋賀 既出

D 渡辺紹助 男 昭和25年生 無職 ~36才(在郷)37~38才(大阪府)
39才(現在在郷)

解説： 宮之浦の町外れの高地に居住するDをCが訪ねたが、目の下に跡のある風の海のことから、Dが昭和23年冬、大成丸(30トン)という木船をつんだ船に便乗して鹿児島へ戻ろうとしたとき、風であった南が吹き季節風に襲われ、大隅半島の佐多岬で遭難して死に一生を得た体験をつぶさに語る。

C jossukeozi owa hisasibui oja jaqte kitaga
好助さん 私は 久しぶりに 私は やって 来たよ。

cjanomini kitaga mukaside demo kataroto omote
茶飲みに きたが むかさで もう たるもんと思つて。

D sa: sa: do: zo a(0)aci kue mo kokowa suzusu-
さあ さあ どうぞ 上がって 先。もう 此処は 漏し

s i te kowa e:wai
くて こりゃ よいわい

C ma iq sjobismo s abete kitatojaga: daika ba-
まあ 一升でも さて 来たのが 誰か 大

ba-n-simo sokon sitani isomonto idemo hasirai-
さんの人も その 下に 破るもの扱いでも 走ら

sebane joka siokena deku dekuigote ana
せばね よい おかげで 出来そうに あるよ

D ima babamo kura:i na:gino eka isomonto i
今 家内も 来るよ。 風が よいから 破ものとりに

it ate misoni nite kutemo ero:
行って、 喰唄に 煙て 食っても よいぞ。

C ho:nokote mata na:gino e: koto k jowa kazea
ほんとだ。 また 風の よい こと。 今日は 風

na:n no kaze jaokaine koja haenkazeja: ne:-
なにの 風 だろうかね。 これは 南の風では

jokaine:

D jaqpai haede jaro kowa kazeja
やっぱり 南風 だろう これは。 風は。

C nocja sikasi: aro sikete kuqto ja ne:jokai
後には、 しかし 芦く 時化で 来るのでは ないだろか。

D koen hija aqpa i ogubaika(z) ede kowa na:i zja
こんな 日は やはり 西南の風で これは 風 だ。

C sonen ieba' josiozi ano taiseimaruno iken-
そう 言えば 好助さん あのう 大成丸の 一件

ja konna hizja nakaqtatoka:
は こんな 日では なかったのか。

D aaja ma sj:wa nizjuninineN zjaqbakaine:
あれは まあ 昭和 20(音) 2年 だったかい。

C nineN zjaqtakai hae mon zjane:
2年 だったかい。 早い もの だね

cjo:do ma teiseN to:zi jaqtaya: zju:nigacuno
 丁度 まあ 停戦 当時 だったが 12月の
 zju:hicinicino baNNi sorekusa biro:N biron^回
 17日の 晚に それこそ ピロン ピロン
 sita wa: agaibaen^回 nayino hi jaqta tokoiga
 した あんた 西あがりの南風の 風の 日 だった ところが
 soini: wa: neqka: ku:sju:go ja mon zjakara
 それに あんた、みんな 空襲後 だ もの だから
 hunewa nasi mo sa: tozecusi ko:kaiwa tozecu
 船は なし、もう それは、社絶し 航海は 社絶
 sicjoqta tokoijo soini taiseimaruwa sumio
 大陸を ところよ。それに 大成丸は 塗を
 roqqjaqpjo: cunde kaposima iki ja cju: mon
 600俵 稲んで 鹿児島 行き だと 言う もの
 zjakara min:nano-siga ma binzjo: site nori-
 だから みんなの連中が まあ 便乗 して 乗り
 konde zenbu okjakusanto seninto site hacie-
 こんで 全部 お客様と 船員と して 80
 zju:nanmei jaqtaro oocjo anpa soini wa:
 何名 だったろう ように あるが それに あんた
 cjo:do go:ono jozivoro jaqtasa mijanurao
 丁度 午後の 4時ごろ だったが 宮之浦を
 dete biro:N biro:N sita ma nabi jaqtasa
 出て ピロン ピロン した まあ 風 だったが
 cjo:do takesimano heNni nisanzikana hasiqte
 丁度 竹島の 辺に 23時間 走って
 takesimahukinni ita tokoini cjo: wa nisikara
 竹島付近に 行った ところに 丁度 あんた 西から
 o:sumo:da aaqte mo: o:agariya sitato ja
 大震が 上がって、もう 大あがりが したの だ。
 e: waqz:kaqcuso... kimoga cubun goto naqtao
 ええ、おそろしかったろう 肝が つぶれるように なったろう。

D sono wa againo cujosa cjuwa mo sa: naNzju:-
 その あんた 上がり風の 強さ と言うは、もう さあ 何10
 nenburino agai jaqtarasi:wai (C e:) so:site
 年ぶりの 上がり だつたらしいわい。(ええ) そして
 ma iqsjo:kenmei kikaiwa ma:qte satanomisaki-
 まあ 一所懶め 機械は 回わって 佐多の岬
 ni mukete ma hasiqcjoqta to:to: sono kazeto
 に 向けて まあ 走っていた。 とうとう その 風と
 namino tameni: wa: tomono ho:kara e: nihei
 波の ために あんた 猛尾の 方から ええと、二へん
 o:namio kuro:te (C ha:qra) so:site wa toto:
 大波を 喰って (あらっ) そしたら あんた。 とうとう
 C soneN ninenha soa hacizju:nimmo noqjoqta-
 そんなに 人間が それ 80人も 乗っていた
 toni na'mi suqka:kete mizubuneni naqtatokai
 のに、波が ぶちかけて 水船に なったのかい。
 D ko:ho:no huneja tomo: umi:n nakae cuqkonde
 後方の 船は 魚尾を 海の 中に 突きこんで
 namika: nomarete sono tokino mo: sono soko-
 彼に のまれて、その ときの もう その (言い立ち
 mo hunazokoni noqjoqta okjakusano-siga hi-
 かい) 船底に 乗っていた お客様の連中が 悲
 meio agete o:sawagini naqte oja ma kaNpani
 鳴を 上げて 大聲に なって。 私は まあ 甲板に
 noqjoqta mon zjakara sosite hjoqto hejaka:
 乗っていた もの、だから、そして ひょっと 船屋から
 tobidasite mita mitatokoi ja so:sita tokoipa
 飛び出して 見た。 見たところ だ そした ところが、
 ma:wa: gaqci huneja ma kikaimo enzimo
 まあ あんた 全く 船は まあ 機械も エンジンも
 mi:nnna mo hiqtomage umi:n nakae ko sakadaci-
 みんな もう 止まって、海の 前で こうや 逆立ち

- ni naqte omoteno ho....
 に なって 表の 方....。
- C s o s i t e o m i j a n a n i n a n n i c u k a m a e t e t a s u k a q -
 そして あなたは 何に (言いよどみ) 捕まって 駄かっ
- t a t a t o k a
 たのか。
- D n : o j a m o s o n o j a n e n o j a n e n o h a s i r a n i z i q -
 ん。 私は もう その、 屋根の、 (言いよどみ) 住に、 じっ
- t o c u k a m a e t e m a h i t o i k i s i c j o q t a t o k o r o g a
 と 捕まって まあ 一息 していた ところ。
- m a t a s o n o j a n e m o z e n b u m o u c i k o w a s a r e t e m o
 又 その 原模も 全部 もう うち崩されて、 もう
- m a q t a k u s o n o h u n e g a m o k u s e n z j a m o n z j a k a r a
 全く その 船が 木船 だ。 もの だから
- h a d a k a b u n e n i n a q t e m o s i k a t a n a k u c u k a m o
 裸舟に なって もう、 仕方なく 捕もう
- s a k i m o n a k a j o n i n a q t e k o n d a : d o n i k a k o : -
 方法も ない。 ように なって、 今度は どうにか、 こ
- n i k a s i t e m a b u r i q c i n o h a s i r a n i c u k a m a e t e
 うにかして まあ ブリッジの 住に 捕まって
- o q t a t o k o r o g a c u i s o n o b u r i q c i m o m o u c i k o -
 いた ところが つい、 その ブリッジも もう 打ち
- w a s a r e t e m i n : n a n o m o : b a c i z j u : n a n m e i n o
 崩されて、 みんなの もう、 80何名の
- z j o : i n g a z e n b u m o m i g i j a h i d a r i n i c i r a b a r a -
 乗員が、 全部 もう、 右側 左に ちらばら
- n i n a q t e c j o : d o s o n t o k i g a z j u : n i z i j a k a n n o
 に なって、 丁度 その 時が 12時 夜間の
- z j u : n i z i h a n n o z i k o k u d e s i t a k a
 12時半の 時刻でしたか?
- C m a q k u r a j a m i k a i
 まくら闇かい。
- D m a q k u r a j a m i j a q t a t o j o
 まくら闇 だったよ。
- C s a i q s u n s a k i m o m i e n t o j a
 さあ、 一寸 先も 見えないかい。
- D o : m i e n t o j o s o i g a w a : s a t a m i s a k i j a m a t o : -
 おお。 見えないよ。 それ あんた 佐多岬は まあ 煙
- d a i m o m o u c i k u e : t e n a i m o n a k a t o j o
- 台も もう うち崩して、 なんにも ないのよ。
- C s e n s o : d e
 戦争で?
- D a :
 ああ。
- C h a : h a :
 はあ。 はあ。
- D s o : s i t e m o s a : d o k o g a n a n j a r a t a s u k e b u n e m o
 そして もう さあ どこが 何やら 剥け船も
- k u r u t e d a t e m o a i s i d e n s i n d e n w a m o m o : t o -
 来る 手でも ないし 電信 電話も もう 杜
- z e c u s i c j o r u s i m o : h o n t o m o : k o k o m a d e d e
 絶 しているし、 もう ほんと もう ここまで
- z e c u m e i z j a t o o m o : t e m o a k i r a m e c j a o q t a
 絶命 だと 思って、 もう あきらめでは いた
- w a k e j a q t a t o j o n e :
 わけ だったのよね。
- C a k i r a m e k i : g a n a q t a k a j a
 あきらめされたのかい。
- D m o s a : s u m i n o u e i n o q c j o r u r e n c j u : c j u w a
 もう さあ、 炭の 上に 乗っている 游中 と言うのは、
- n i z j u : n i n g u r a i s o n o m o k u t a n n o u e j a z o r o q : t o
 20人ぐらい その 炭の 上や、 ソロゾロと
- i k a d a n o u e : n o q t a j o : n i m o b a g a s a e t e s i m o : -
 いかだの 上に 乗った ように、 もう 流されて しまっ

tena:
 てね。
C kodoma: nocjoran zjaqtaka
 子どもは 乗って いなかったか。
D mo kodomowa karut tamamano renju:mo taku-
 もう 子どもは 背おうたまの 遅中。 泽
 san oq tatojo
 山 いたのよ。
C goainagene:
 かわいそうにね。
D rokunin kodomomo ano: iqso:none: saito:
 6人の 子どもも あのう 一泣のね。 斎藤
 cju: hitono h n musumenanka ko: karut tamama
 という 人の あのう むすめなんか 子を 背おうったまま
 karada ojawa karada: aqatakeredomo asuno-
 (意まちかひ) 親は 休は 握がったけれども。 荘
 asa: son kowa nukete orantara obidake ta-
 朝は その、子は 素けて いかいのねよ。 * 帯だけ た
 suki gaken i site
 すきがけに して。
C minnade iqkwabakai sindatoke
 みんなで いくらばかり 死んだのかい。
D cjo:ro jonzju:joninbaqkai sindatojona:
 丁度 44人ばかり 死んだのが。
C bute: gisei jaqtana:
 大きい 猛牲 だったね。
D hanbun hanbun soiga jokusasa konda cio:do
 半分 半分 それが 週朝 今度は 丁度
 asano kuzi gozen kuzi jaqtaka jokusano
 勤の 9時 前半 9時 だったか。 翌朝の。
C satano izasikini micio siode mocikomarete
 佐多の 伊座敷に 游ち游で もも込まれて。
 so:site asikono sono hetade e: sjo:bo:sumida
 そして あそこの その 沿边で、 えと 消防署が
 kju:sai site kurete so:site ma: ci:saka
 教房 して くれて、 そして まあ 小さい
 kobuneo dasitena: so:site ma soini ma buta-
 小舟を 出してね。 そして まあ それに まあ 二人
 rizucuzu(cu) nosite hakobi kata ja ikinokorio
 (武まちかひ) 乗せて 運ぶ 始末 だ 生き残り。
 mo son tokija mo sora nemusaga cuzukantojo:
 もう その 時は もう それは 限さが 帰えられないよ。
 na:
 ね。
C so netara warite jaq cjune:
 そう。 寝たら 悪いの だ と言うね。
D ha: mo maqtaku soa mo gotaimo kanawan jara
 はあ もう 全く それは もう 五体も 叶わないやう。
 hikiaget morote ipta tokorou okani sono
 引き上げて 買って 行った ところが 隣に その
 mokutan no taitena: cianto mata (de)muru jo:-
 木炭を 燃いてね もんと また 燃る よう。
 ni sikunde aqte sokoni ma sono sju:jo:
 に 幸運して あって、 そこに まあ その 収容。
 seraretakeredomo
 せられなけれども。
C son toki iken zjaqtake a: tasukaqtato omo-
 その とき どんな だったかい ああ 助かったと 思
 takaja
 ったかい。
D ha: mo: namo kanmo nemusatona:
 はあ もう、 何も かも 眠さとね。
C a: nemusare
 ああ。 眠さで。

D g o t a i g a m o k o s s a k a n a w a n t o l o
五体が もう 腹は かなわないよ。

C n a r u h o d o
なるほど。

D mo: j o k o (i) n a q t a m a m a n a i s i t e s o s i t e ' w a
もう 横に なったまま なに して、 そして あんた、

a h i k o n o s e i n e n n o - s i g a m a i r o n n a m a s o n o k i -
あそこの 青年の達が まあ いろんな まあ その 痴

m o n o o m o q t e k i t e k i s e t e k u r e t e m a s o s i t e
物を もって 来て、 着せて くれて まあ そして

m a k a j u n o m i z u m i t a j o n a k a j u o s u s u g t e s o : -
まあ 脳の 水 みたような 弱を すすって そ

s i t e m a t o : t o : m a t a s u k a q t a w a k e j a q t a i g a n a :
して まあ とうとう まあ 聞かった わけ だったんだがね。

(C e:) s o i k a r a s o n o m a h i w a k o n d a i c i z i c u s o -
ええ それから その また 日は 今度は 一日 そ

n o k u b i z i q k e n z j a c u t e n a : a h i k o n o s a t a n o
の 首実見 だ と言つてね あそこの 佐多の

c j u : z a i s j o k a r a a s i d o m e o s e r a s t e s o : s i t e m o
駐在所から 足留めを せられて、 そして もう

s i t a i g a z u : q t o a q p a i s o n m o u i t e a g a q t e
死体が ずっと やはり その もう 浮いて 上がって

k i t a r i o k i o n a g a t e i k u t o k o m o s o n o a q t o j a -
来たり 神を 洗いて 行くのも その あるのだ

k e d o m o s i k e t o r u m o n z j a k a r a s a o m o t o d o k a n s i
けれど 時化している もの だから、 棒も とどかないし

h u n e m o d e r a r e n s i s i t e m i n a g a r a j a q t a t o n a :
舟も 出ないし して、 見ながら だったのさ。

m o : o n n a n o - s j a : m o k a m i m o j a n b a r a n i t o k e t e
もう 女の達中は もう 髪も ばらばらに 展げて、

s o : s i t e m o : h j o r o : n h j o r o : n u k i s i z u m i s i t e
そして もう ヒヨロン ヒヨロン 舌き込み して

i k u s u g a t a c j u w a h o n t o n i m o k a w a i s o n a m o n
行く 姿 と言うは、 ほんとに もう 可哀そうな もの

z j a q t a t o n a
だったよ。

C m o k o n o j o n o i k i z i g o k u j a q t a t o j a n a
もう この 世の 生き地獄 だったのだなあ。

D h a :
はあ。

C h a :
はあ。

D m o w a s i m o a n t o k i s i n e b a k o r a i m a : m o :
もう 私も あの 時 死ねば ほれ 今は もう

z j u : h i c i n e k i n o n e h k i m a c u i m o (笑) h e q s i t e m o -
17年経の 年忌祭も (せき) して 實

r o c j o q t o k i j a r o t o m o c j o q t o k i j a o t o o m o c j o -
っている とき だろうと 思っている とき だろうと 思っている

q t o k o i z j a : (笑い)
ところ だ。

C m a s o j a k j o : w a s o a m o e : t o k o i n i m i h a r a s i n o
まあ それ 今日は それ もう 良い 所に 見附しの

e : t o k o i n i e : b e q s o : d e m o c u k u q t e z j u : h i c i n e n
良い ところに よい 別荘でも 造つて。 17年

t a t e b a j o n o n a k a : e : s i n d a h i t o i k i q t a h i t o
立てば 世の中は ええ 死んだ 人 生き残った 人

k a w a q t a m o n (D N :) z j a o w a i s o a k j o w a m a
変わった もの うん だろうわい。 ほれ 今日は まあ

u n t o i q s j o m o q t e k i t a k a : n o m o w a i
うんと 一升 もって 来たから 欲もうわい。

D h o n n o k o t e m o k o a : m o e n m a n o c j o : m e n n j a d o -
ほんとだ。 もう こりゃ もう 闇庇の 横面には ど

b i t e n m o a k a s e n n o b i : t e m o : z j o s e k i n a q c j o -
うしても もう 赤袖を 引いて もう 陰庇に なって

q N mon zjao gato zra'i mo iq tokja sin ja na:-
いる もの だろう ように あるわい もう 習らくは 死ぬことは で

Nme……(笑い)
きまい……。

Cma sōN tokoide hitocu kjowa ippai nomo
まあ その ところでも ひとつ 今日は 一杯 斎も。

D hai
はい。

C a:
ああ。

注

- (1) [p. 6] 鹿久島電気興業会社をいう。
- (2) [p. 6] mo Nno は方言の文末助詞「ものを」の意。
- (3) [p. 6] 地区の名。
- (4) [p. 6] 地区の名。waqda は原田であるかも知れないが、鹿町のことと言う。ただし waqka のようひびく。
- (5) [p. 7] deka は不確かの意の助詞、ほぼ「やら」に当たるが、あとに推量体の文がつづく。オッデカ ジャイヨ オランデカ ジャイヨ (いるやら(だろう)いないやら(だろう))。ジャイヨは「ちゅるらう」から転じた。
- (6) [p. 7] cino:teiku のいがむち形。
- (7) [p. 7] zjaru+wai (じゃる+わい)
- (8) [p. 8] noritoran^Nの訛り。動詞連用形に「取る」がつくと、「動詞の完了・完済を示す」。
- (9) [p. 8] sju:sibaqcimo のようにひびく。(話し手の歯のぐあいに由るか)。ciu:baqcimo あるいは cibaqcimo のいずれかで十分。頭の cju: — を生かすか歯の -ci- を生かすか。
- (10) [p. 8] jao ikan^N は簡単に行かない。軽く扱われない。大したもののだ意。
- (11) [p. 8] 大いにたいしたものだ。「何々どころかい、何々どころではない」という表現形式は、聞きに対して、むろんそうだと肯定するときによく用いられる。
- (12) [p. 8] 種子島の市表(市)のこと。
- (13) [p. 9] 「大変に」とありたいところ。
- (14) [p. 9] zjakarane: の意。
- (15) [p. 9] あとに「まだ田舎だった」と言いたいところを A にへし折られる。
- (16) [p. 10] naq teiku の訛り。
- (17) [p. 10] 語の由来不詳。
- (18) [p. 10] 「ほんとにそうなのだ」の意味。注 11 参照。
- (19) [p. 10] siwa: のようにきこえる。
- (20) [p. 11] 「大いに思う」の意味。注 10 と同類。
- (21) [p. 11] 「あがめらん」の形で「何々しなくてもよい」の意を表す。
- (22) [p. 12] baqtai na:N は「すっかり成らぬ」の義で、「歌目だ 行き詰った」の意味で用いる慣用句。

- 箇 (p. 12) ikan c jaga (-ika n to jaga) の転。
 箇 (p. 13) 本妻の名前。
 箇 (p. 13) 情婦の名前。
 箇 (p. 14) wa:geno (「わが家の」義) の転。
 箇 (p. 14) つっぱねて、遊逛しての意。
 箇 (p. 14) このあとに「すなむち」という語を入れると、意味が通じよい。
 箇 (p. 15) cjute oiteの顔形。
 箇 (p. 15) 大事にしていることをいう。
 箇 (p. 15) jute は無じでいいが、話す手はcjuteのあとにこれを重ねる癖がある、後にも出る。
 箇 (p. 16) moqte itate を縮めるとmoq tateとかmoqtaiteとかになる。後者の - i は強めの添加か。
 箇 (p. 17) toqtatsuのようにきこえる。
 箇 (p. 17) 一desujiは標準語的。
 箇 (p. 18) 一ozu は年配の人につける敬称接尾語。「叔父」の義。
 箇 (p. 18) 「からくり」の號り。
 箇 (p. 18) 「責め殺されて」の義。「殺される」は接尾語で「大いに責められて」の意。
 箇 (p. 18) 福(ワザワイ)を形容詞化し「ぞそろしい、大きめ」などの意に使う。同調的にも使う。就形多し。又カ語尾形容詞としても用いる。以下対訳に例出。
 箇 (p. 19) Ndomi は Ndo だけで自称代名詞だが、それと「身」という自称代名詞の複合したもの。
 箇 (p. 19) 「踏み殺さるる」の後。注(?)忠原。なお「一るる」の部分はkorosaoru (殺さるる)、napaoru (流るる)式に一oruと変化する。
 箇 (p. 20) 「ほんとにそうだ」の意。
 箇 (p. 20) 「役せぬごとなつた」の義。
 箇 (p. 21) 断定的助動詞「じゃ」の已然形「じゃれば」である。
 箇 (p. 21) 「もちろんそうだ」の意。
 箇 (p. 22) 「倒身たちは」の義。最高級意の対称。しかし文末表現はそれに無応しない。
 箇 (p. 22) 「御身は」の義。
 箇 (p. 22) zjagtado が藤岡方言的。ただし推量形にあらず。
 箇 (p. 23) jaは jai ともいう。断定助動詞。ここでは送体形。
 箇 (p. 23) ' -daketa de dake ta (出来た)と dasita (出した)の混合形。
 箇 (p. 24) 「呉れやらぬかい」の義。
 箇 (p. 24) 「だれでいるかねえ」の義。

- 箇 (p. 24) mi roka ine: の転。
 箇 (p. 25) ともに地名。kui se は木未暗黙の意味だったが、今は固有名詞化したといわれる。
 箇 (p. 25) 大魚群をいう。小さい方はカナという。「青味勢」の義か。
 箇 (p. 25) 「役せぬだ」の義。
 箇 (p. 26) toqcjoqhi hata: の hi が落ちたか。
 箇 (p. 26) 標準語。
 箇 (p. 27) ここではbababaは相手の夫さんに對して用いている。「婆」の義だ。
 箇 (p. 27) 例のは磯でされる貝類をいう。
 箇 (p. 27) 「堆氣」の義。藻の名。
 箇 (p. 27) '-deiは余計か。
 箇 (p. 27) ogubaikazeはokubai kazeが普通で、西寄りの南風をいう。
 箇 (p. 28) 油を流したような海面のおだやかさをいう。
 箇 (p. 28) 西南風をいう。南風が西へ変ることを「上がり」という。
 箇 (p. 28) トカラ列島のうちロノ三島の一つ。
 箇 (p. 28) 「大あがり」は風が西へ変わらざるい、疾風となるをいう。
 箇 (p. 29) suakaket eの長音化した形。suqは並意を示す接頭語。
 箇 (p. 30) 「先」の義だが、「…する先もない」という句は、すべがない、という意に用いる。
 箇 (p. 30) -desitakaは標準語的。
 箇 (p. 30) 「うちくやして」の転。くやす(塙わす)は古語。
 箇 (p. 32) 「業らしあげねえ」の義。「業らし」は「可哀そう」の意味。
 箇 (p. 32) 上屋久の漁港名。
 箇 (p. 32) -keredomoは標準語的。
 箇 (p. 32) oraNtojaruwaの短縮形。jaruは断定の助動詞。
 箇 (p. 32) 8 0 人中死者約 4 0 名 生者約 4 0 名だからいう。
 箇 (p. 32) 大隅佐多岬の港名。
 箇 (p. 33) 「へた」は「舟」に對していう語で、陸寄りの舟をいう。
 箇 (p. 33) 「続かぬ」を「若えられない」意に使う。
 箇 (p. 33) (de)muruはnemuruが正しいのか。不確か。
 箇 (p. 33) -keredomoは標準語的。
 箇 (p. 34) ikutomoの言いまちがいか。

非売品

1968年3月

国立国語研究所 話ことば研究室 発行

東京都北区椎村西山町

